

新収蔵 村瀬卓郎展

会 期 2013年12月7日(土)～2014年1月26日(日)〈39日間〉
 会 場 美術工芸展示室
 展示作品 6点
 観 覧 料 無料



内 容

美濃加茂市蜂屋町出身の洋画家・村瀬卓郎（1926～1999年）を紹介しました。小学校時代、作家は同郷に生まれた洋画家・坂井範一の作品に出会い絵画に興味を持ちます。戦後、教員養成所を卒業した後に武蔵野美術学校西洋画科で洋画を学びました。市展、県展、独立美術協会展に入選を果たした作家は、昭和25年から出品を始めた現代美術家協会展（現展）の会員となり、第55回展まで毎年現展への出品を続けました。

作品は、太い線や色面により構成した抽象的な絵画の時期を経て、「田園」のシリーズへとたどり着きます。大阪の金剛寺にある「日月山水図屏風」に想を得たものであると自ら語り、20年近く制作を続けた連作です。本展では「田園」シリーズから4作品と、後年に手掛けた人物をモチーフとして幻想的な世界を描いた絵画2点を展示しました。

新収蔵 村瀬卓郎展 作品リスト

no.	題名	制作年	技法	サイズ	出品歴
1	蘇生する田園		水彩、パネル	73.5×102cm	
2	田園の幻映	1976（昭和51）年	油彩、キャンバス	162×130cm	第32回現展
3	田園の残映	1979（昭和54）年	油彩、キャンバス	162×130cm	第35回現展
4	静寂が漂う田園	1983（昭和58）年	油彩、キャンバス	162×130cm	第39回現展
5	思慕	1984（昭和59）年	油彩、キャンバス	162×130cm	第40回現展
6	回想・旅の流転	1994（平成6）年	油彩、キャンバス	162×130cm	第50回現展